

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム あかつき防府		
所在地	山口県防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、一人一人の状態を考察し、役割を持ってもらい、じっとしていることの不安・苦痛を察することで日々の生活に生きがいを感じていただけることをテーマに支援を心掛けている。職員には一人ひとり目標を持って、施設内研修の参加以外にも職員が中心となり定期的に研修計画に沿って資料作成から発表まで会議の際に実施して自己研鑽を心掛けており職員一人一人の個性を尊重しながら チームとして成立する心豊かな認知症介護を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3590600213-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 1 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の施設を建てたいと声が挙がり、誕生してから10年の月日が経ち、一般介護職で入職した職員は、ユニットリーダーを経て、現在は統括管理者となっている。現管理者は、開設当初は特養に配属されていて、その時に仲良くなった利用者がグループホームに顔を出してくれたことが、今では良き思い出となっている。グループホームの利用者が特養へ遊びに行き、おしゃべりやレクリエーション活動を楽しんで戻ってくることもあり、施設内でたくさんの馴染みの人や場所が形成されている。さらに面会を兼ねて利用者の息子さんが施設内の草刈りに来て頂いたことがあり、その際には大きな窓から、お互いの顔を見合わせられた。管理者の思いは、利用者の気持ちを尊重して、自宅のようにほのぼのと快適に暮らせるようにしたいと考えている。前管理者の思いを受け継ぎつつ、現場の声をにも常に耳を傾けるようにしている。職員や利用者のマイナスな面を見るのではなく、プラスの面を見るようにして、全員が楽しく、幸せになれるように願っている。パート・正職員の役職に関係なく、全ての職員を平等として考えていて、「何事もチャレンジ精神が大切だ」と管理者は熱く語ってくれ、常に前を向いている姿がとても印象に残った。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基本に各ユニットにて自分達がしたい、してもらおう事で安心できる理念を考え業務に携わっている。	理念は、グループホームの玄関先に掲示していて、目に触れられるようにしている。入り口に7つの目標も掲げてあった。「入居者の立場に立って、思いや訴えをしっかりと傾聴し、皆が安心して穏やかに暮らせるように支援します。」をモットーに日々の介護に従事している。新人職員へは、管理者から直接理念を教えている。	理念の振り返りの場を設けてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	依然、コロナでの影響は変わらずあるも定期的な清掃活動(地域・小学校)・避難訓練へ参加はしている。また地域の小学校の生徒さんとの交流、中学校の生徒さんの職業体験などがあげられる。	年1回、地域清掃に参加して溝掃除を行った。地域の方と出会った際には、挨拶を交わしている。公民館の夏祭りに参加した際には、利用者は大いに喜んでいて。コロナ以前は、法人の夏祭りに地域の方を招待したり、小学生のお遊戯や中学生の職場体験を受け入れたりして、再開を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前回同様に自施設から地域への発信は出来ない。ただ、入居申し込みや相談の際には認知症の事についても話をさせてもらい理解に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、毎回事前に職員に意義について説明をしている。	外部評価に向けて、全職員で準備を行い、日々の業務の見直しにも繋がった。オムツの管理場所をどうするかの話合いが出た。出た評価結果を基に、両ユニットの管理者を中心に改善に向けて取り組む予定である。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、その都度報告をさせてもらい出席者より意見や助言を頂いている。	2ヶ月に1回、対面で実施できている。協議会会長、副会長、自治会長、法人内の他施設の管理者と家族代表、地域包括センター長が参加している。職員・利用者状況、感染・面会報告、看取りについて話し合った。施設長のスライドショーがあり、資料が見やすいように工夫されていた。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所にはその都度、連絡や何らかの申請の際には行って状況を聞かれた時に報告、相談している。その他、包括や居宅からも状況確認や相談された際には伝えている。また、GH協会に参加し日頃より連絡を取り会議にも参加している。	提出書類がある際には、直接持参したり、郵送したりしている。直近では、認定調査について電話にて問い合わせた。役場からの連絡は封書で来たり、グループホーム直通のメールに届いたりして、常に確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止、3ヶ月に1度と定期的に会議を行い現状確認と見直しを行い委員会資料はユニット内研修へと繋いでいる。また委員会メンバーは毎年入れ替えて配置している。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。拘束の見直しや確認、内玄関の施錠、スピーチロックやセンサーマットについて話し合った。インターネットより事例を取り上げて、資料として配布している。直近では、グレーゾーンの確認やスリーロックについて取り上げて、学びを深めた。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は2ヶ月に1度と定期的に会議を行い現状確認と見直しを行い委員会資料はユニット内研修へと繋いでいる。また委員会メンバーは毎年入れ替えて配置している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の方に成年後人と補佐人の対象の方が居られ制度、役割について説明し入居者、職員との関りについて会議などで話し合いを行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間を取りご家族の意向を説明の度確認をするとともに、不明な点や不安な事については時間を掛け説明し、ご理解していただき納得されたのち契約を行ってもらう。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や地域の第三者委員などの苦情相談体制を契約時に説明すると共に、家族に関わる際には不安や心配事は無いか聞くようにしている。御家族から意見や心配事あれば、その都度現場に伝え、改善必要あれば会議棟で話し合いを行っている。	面会は、相談室やホールにて対面で開催している。何かあればメールや電話でやり取りをしている。家族から下肢筋力が低下しないように、足上げ運動をして欲しいとの要望が挙がり、無理のないように行っている。利用者からケーキが食べたいとの声が挙がり、誕生日の際に提供したら、喜んで頂けた。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に開催しているユニット会議では各職員が担当者の状況報告も加え業務等への意見を言う機会を設けている。また、その意見については反対するのではなく尊重し業務等へ反映できるように話し合う。個人的に相談、意見して来た場合にも本人の意見を尊重し受け入れるようにしている。	月1回、ユニット会議を開催している。年1回、施設長・管理者面談があり、その時に意見を聴取している。管理者は常に職員の意見に耳を傾けて、「まずはやってみようの精神」で取り組んでいる。職員の意見から、臀部に痒みがあった方への対応として、薬の変更や陰部洗浄・オムツ変更を実施して、現在経過観察中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々のスキルや実績、自宅介護、育児などの生活環境に応じ雇用形態、勤務体制を配慮している。また、スキルアップに向けた雇用形態も年に1度の自己評価と面談にて柔軟に対応するように		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修への参加は依然中々できておらず、今回は実践者、実践者リーダー研修にも参加できず。施設内研修については定期的に併設施設(特養)と合同で参加しており、グループホームからも開催を実施している。	毎月、内部研修を法人全体で実施している。職員の年数や能力に応じた研修に参加して頂いている。研修に参加した職員が復命書に記載して、全職員に通達している。新人職員には、現場で一から丁寧に教えている。1年毎に個人の目標シートを振り返り、次年度に活かせるようにしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への参加により、事業所同士の状況報告、意見の交換の機会はある。研修等にも参加出来る際には参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には環境に慣れてもらう事、信頼関係の構築に努める為に定期的な声掛けや本人の訴え、要望、話を聞く時間を作った。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの際、入居が確定した時点で御家族の要望、意向等を伺いそれに沿ったサービスを提供している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントに基づき、御家族の要望、意向等を伺いそれに沿ったサービスを提供する。本人には面会時に趣味嗜好、昔していた事を確認している。また、入居後に様子を見ながら改善点あれば見直しを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の尊厳を大事にした上で関りを持ち、入居者同士関りが持て、馴染み関係が築けるように配置(食堂席)を配慮している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員一人一人が入居者の担当を持つ事で、家族との関係を持ち、その都度近況の連絡、報告をする事で家族と共に入居者本人を支え合う関係性を築いている。		
21	(9)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ5類相当の扱いになるも感染予防の観点から制限あり馴染みの人、知人も尋ねて来られる事が殆どなし。馴染みの場所もドライブ(車中より)見る程度。	面会は、相談室やホールにて対面で実施している。利用者の息子さんが施設内の草刈りに来て頂いたことがあった。グループホームの利用者が特養へ出向き、おしゃべりやレクリエーション活動を楽しんでいる。法人内の他施設の職員や利用者との交流もあり、馴染みの人や場所が形成されていた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士馴染みの関係が作れる食堂席の配置や、職員が間に入り入居者同士の橋渡しを心掛けている。また、関りが持てる機会(レクや行事)を提供している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も併設の特養に入居された際には会いに行ったり、御家族が来られた際には声を掛け話をする機会がある。他施設に行かれても御家族から近況や不安な事を相談される事あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まずは入居前の面談にて本人の意向を必ず伺い入居後も担当が本人と関りを持ち改めて意向を伺っている。その後は担当以外の職員も関わりながら全職員で様子観察しその都度本人の意向を確認している。	入居時に、他のGHの職員からの情報提供やフェイスシートにて、生活歴や家族、既往歴の確認をしている。発語が少ない方への対応として、表情や仕草から読み取り、職員間での情報交換をして、ベストな選択ができるように模索している。気づいた点は、ユニット会議にて意見を出し合っている。	今でも十分にできていますが、さらに利用者の思いに寄り添えるように配慮してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを申請として全職員が生活歴、以前の暮らし方、環境、家族構成等を確認出来るようにし把握し本人が施設で望む暮らしが実現できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前のアセスメントに基づき、本人との関りや、施設での生活習慣を観察しながら、施設の中での本人の望む暮らしの実がんに努めている。また、御家族からの情報も全職員で把握、共有し環境作りをしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当にて1ヶ月度に統括、評価をモニタリングにて行っている。また、ユニット会議にて必要事項は職員全員で検討し、計画作成の際には必ず御家族にも近況報告し意向を確認している。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ3ヶ月で見直している。長期目標6ヶ月、短期目標は3ヶ月で設定している。担当制を敷いていて、ケアマネジャーに書面を提出して、確認している。ケアプラン更新時に合わせて、家族へは書面で郵送し、同意を得ている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録事項等はタブレット、電子化し何時でも記録の打ち込み、閲覧ができる様になり職員同士での情報共有を図っている。申請事項あれば、業務日誌、申請ノートに打ち込み、記載し検討を要する場合にはユニット会議にて検討している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により併設、敷地内に特養、養護、通所デイサービスと多職種にて協力を図る。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状、状況により病院(歯科や眼科)受診する程度で感染が落ち着いている際などに外出でドライブで車中より見る程度。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科については数名の入居者の方のみかかりつけ医にて定期的受診行っているが、大半の入居者の方は御家族に説明し同意を得た上で委託医にて対応し他科受診については、その時の状況に応じて検討し受診を行っている。	かかりつけ医は入居時に選べ、ほとんどの方が協力医へ転医している。週1回往診があり、ドクターとの関係性も良く、利用者は和気藹々と話をしている。他科受診は、職員同行を基本としているが、家族対応の場合もある。歯科も提携医があり、何かあればいつでも相談できる体制となっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師在中にて日々の健康管理、様子観察で異常、問題、疑問があればその都度連絡、報告している。看護師不在の場合も、併設の特養の看護師に急変時等あれば連絡、相談し協力体制を取っている。状況に応じて訪看も依頼している(その場合は御家族に連絡し了承を得ている)		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	囑託医・かかりつけ医には定期受診(状況により御家族も同行で入居者の方の送迎は施設対応)で相談することはもちろん、入院の際には病院に状況確認の為に適時連絡を取りまた、個人情報もあるので御家族からも状況確認し、病院、御家族と連携を図っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期における家族のご意向を聞くようにしている。但し、食事の経口摂取が出来なくなった時は退去(医療行為が出来ない為)の扱いとなる事を説明している。入院後3か月はお部屋を確保する事としており、退院後の施設での生活の再開には協力する事としている。	入居時に「重要事項説明書」や「推定する本人の意思に関する同意書」にて説明し、同意を得ている。終末期に差し掛かった際には、ドクターや家族と話し合い、法人内の特養に移られる方が多い。同じ敷地内への移動なので、利用者は安心できる環境となっている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	行動制限をしない反面、転倒事故の危険は常にあり。リスクについては普段から会議にて職員間での対応を検討している。その他事故の際は報告書を作成し、対策・対応にて実行している。ユニット研修、施設内修では看護師による応急対応の研修を受け緊急対応の訓練も実施している。	事故・ひやりはっとは記載して、事故防止委員会で確認している。直近では、車椅子に移動する際にブレーキがかかっていないことがあり、今後の対応策として、必ずブレーキを掛けるように再確認を促した。事故防止マニュアルも整備されていて、内部研修も実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(年に2回)実施しており。地域との協力体制についてはマニュアルあるも地域との避難訓練などは実施できておらず。	年2回、法人内の他施設合同で火災訓練を実施している。駐在所と消防署が施設の隣にあるので安心できる。訓練時には、防災頭巾を被って、窓際に避難した。緊急連絡網は、事務所と各ユニットのリビングに掲示してある。備蓄食材は厨房で一括管理され、消耗品は各ユニットの介護材料室にて保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な言葉かけは接遇を年1回研修として実施する。また管理者、ユニットリーダーにて職員の業務中の対応を気にしながら気になった職員には時間を作り状況確認をしながら注意する。	年1回、接遇研修を実施して、介護・職場マナー、表情や態度、挨拶や言葉遣いについて学びを深めた。復命書にて、他の職員にも情報を伝えている。相手の表情を見ながら、馴れ合いにならないように配慮して接している。居室に入る際には、言葉掛けやノックをしてから入室するようにしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者が望んでいることを常に推測するように心がけている。また、本人と関わることで馴染みの関係を築き、要望・希望を言いやすい雰囲気を大事にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間をはじめとして、日常生活はほぼ時間が決まっている。ただ強制するのではなく誘導・案内する姿勢は崩さないようにしている。誘導の技術を磨く事で業務もスムーズに出来るのだが、難しいときはその人のペースに合わせ、無理強いはいしないというルールにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がその日の気候に合わせて準備するが、選択できるよう配慮している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好を確認し提供をしている。依然、外食にて食べる機会がなかなか出ていない。食事の準備は、現在業社からの配食で厨房を通して提供しているので、台拭きやお盆拭き等を入居者の方にしている。	3食ケイタリングで、法人内の厨房に完成したものが届く。盛り付けは各ユニットで行っている。利用者の食事形態に合わせて、刻みやミキサー食に変更している。法人内に管理栄養士がいて、業者との窓口となっている。おやつ作り際には、ホットケーキの上に各自でデコレーションを楽しむ姿が浮かんできた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は業社にて行っており、食事摂取・水分摂取の記録等は職員が行っている。体調不良や摂取状態により栄養士に相談、検討し食事形態の変更を行っている。また食器の変更なども状態を見て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・夜間の入れ歯洗浄は実施しており、口腔内の状態もチェックするようにしている。歯の状態により協力歯科医の山野医院に受診、若しくは往診をお願いし歯の健康管理を行っている。また口腔ケアの研修にも参加している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人一人に合わせたトイレ介助を行い、日中はトイレでの自力排泄を促す為に適時(排泄チェックにてパターンを把握し)トイレ誘導している。夜間は寝る事を重視する為に入居者によっては紙オムツ対応している。	トイレは各ユニット4ヶ所あり、単イス対応の広さとなっている。排泄チェック表は、紙媒体とタブレットを併用している。利用者一人ひとりのタイミングで言葉掛けを行っていて、排便コントロールにも繋がっている。布パンツ過ごされている方が3~4名、夜間のみポータブルトイレを使用している方は1名いる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	状況に応じ栄養士、看護師に相談し食品提供している。それ以外では大半の人が主治医と相談し下剤服用にて排便コントロールしている。水分は1日基本1.5ℓを目安に摂ってもらっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めて声掛けしているが入居者の意向や状態により入浴したい時に実施したり、入浴日を変更している。入浴の仕方も時期や状態に合わせてシャワー浴や足浴も行っている。	入浴は週2回で、半数以上の方が浴槽に浸かっている。入浴時間は20分くらいの時間を取っている。入浴を拒否される方へは、脱衣所のトイレに行った後に、さりげなく誘導している。1つのユニットはボランテを導入している。個浴の方では、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現在も高齢化にて、入居者の方の負担がない様に昼寝など本人の意向に合わせて休んでもらっている。その為基本的な就寝、起床時間あるも強制はせず本人のペース、パターンに合わせて寝られる様に支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師、現場職員にて管理、確認を行っている。薬情報はファイルに綴っており常時、作用、副作用が把握出来るようにしている。服薬による状況変化は、まず看護師に報告し次に往診時等に主治医へ看護師より報告、相談し検討した上で薬調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方の役割は関りの中で見出し状態に合った家事手伝い等をお願いしている。楽しみごととしては本人の趣味を入居時のアセスメントより職員にて把握し本読みや塗り絵等を行ってもらっている。	個別でのレクリエーション活動を大切にしている、TVを観ながら利用者同士が会話を楽しんでいる姿が窺えた。編み物や塗り絵をしている方もいる。各ユニット毎で毎月レクリエーションを行い、福笑いや紙飛行機で紙コップを倒したり、ハロウィンでは仮装パーティーで大いに盛り上がったりした。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度も外出花見のみで企画をし実施する。	家族同伴の外出は可能で、猪の置物を買ってこられた方には、満面の笑みがこぼれていた。気分転換として法人施設内の散歩を楽しんでいる方もいる。春先には目の前の道路が桜並木となり、利用者のベストショットが撮れた。施設前の庭で、ゲートボール大会が開催され、利用者は応援していた。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	依然、外出頻度も減っており、職員と一緒に外出して嗜好品や日用品をご本人で支払って頂く機会もなくなった。現在、殆ど職員、御家族にて日用品補充、代買を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は以前携帯を所持されている入居者の方も居られたが現在は居らず。その為、御家族から連絡があった際などには電話で話す機会あり。手紙のやり取り御家族からあり、施設からは年賀状を送る程度。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付け、入居者さんと作った壁面飾りや写真を貼っている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。依然、感染予防にて室温、湿度には気を付け、換気は適時行っている。	開放感溢れるリビングの壁面には、季節の飾り物や利用者の写真・作品が飾られていて、金魚の成長を利用者と共に見守っていた。TV、手芸、塗り絵をして自由にのびのびと過ごしている姿が窺えた。職員と利用者とのやり取りで、お互いにOKサインを出して、アイコンタクトを取っている姿がなんとも微笑ましかった。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係が作れるように配慮して、テーブルの配置・席替えなど行っている。また、お一人が良い方にはテーブルを一人用を使用し席を配置している。話がある場合には職員が椅子などを移動し一緒に過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・家族のご意向も参考にしながら入居者それぞれが落ち着ける部屋作りをしている。思い出の品を持ち込んだり、逆に極力少なくして混乱を避ける工夫をして、一人一人の部屋作りをしている。	備え付けは、ベッド・エアコン・テレビ台付きタンス。全室が時間帯によって日が当たる場所となっている。窓は大きくて低い位置にあり、自然と一体感になっている。職員からプレゼントされた色紙や家族写真が大切に飾られていた。塗り絵が得意な方の部屋には、たくさんの作品が飾られていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し、一人でもトイレに行ける・自分の部屋に戻ることができる等、分かりやすい生活環境を作ることを心掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)		1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)		1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600213		
法人名	社会福祉法人 暁会		
事業所名	グループホーム あかつき防府		
所在地	防府市大字江泊1790番地		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共同生活の中で、一人一人の状態を考察し、役割を持ってもらい、じっとしていることの不安・苦痛を察することで日々の生活に生きがいを感じていただけることをテーマに支援を心掛けている。職員には一人ひとり目標を持って、施設内研修の参加以外にも職員が中心となり定期的に研修計画に沿って資料作成から発表まで会議の際に実施して自己研鑽を心掛けており職員一人一人の個性を尊重しながら チームとして成立する心豊かな認知症介護を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3590600213-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 1 月 17 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の施設を建てたいと声が挙がり、誕生してから10年の月日が経ち、一般介護職で入職した職員は、ユニットリーダーを経て、現在は統括管理者となっている。現管理者は、開設当初は特養に配属されていて、その時に仲良くなった利用者がグループホームに顔を出してくれたことが、今では良き思い出となっている。グループホームの利用者が特養へ遊びに行き、おしゃべりやレクリエーション活動を楽しんで戻ってくることもあり、施設内でたくさんの馴染みの人や場所が形成されている。さらに面会を兼ねて利用者の息子さんが施設内の草刈りに来て頂いたことがあり、その際には大きな窓から、お互いの顔を見合わせられた。管理者の思いは、利用者の気持ちを尊重して、自宅のようにほのぼのと快適に暮らせるようにしたいと考えている。前管理者の思いを受け継ぎつつ、現場の声をにも常に耳を傾けるようにしている。職員や利用者のマイナスな面を見るのではなく、プラスの面を見るようにして、全員が楽しく、幸せになれるように願っている。パート・正職員の役職に関係なく、全ての職員を平等として考えていて、「何事もチャレンジ精神が大切だ」と管理者は熱く語ってくれ、常に前を向いている姿がとても印象に残った。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を基本に各ユニットにて自分達がしたい、してもらおう事で安心できる理念を考え業務に携わっている。	理念は、グループホームの玄関先に掲示していて、目に触れられるようにしている。入り口に7つの目標も掲げてあった。「入居者の立場に立って、思いや訴えをしっかりと傾聴し、皆が安心して穏やかに暮らせるように支援します。」をモットーに日々の介護に従事している。新人職員へは、管理者から直接理念を教えている。	理念の振り返りの場を設けてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	依然、コロナでの影響は変わらずあるも定期的な清掃活動(地域・小学校)・避難訓練へ参加はしている。また地域の小学校の生徒さんとの交流、中学校の生徒さんの職業体験などがあげられる。	年1回、地域清掃に参加して溝掃除を行った。地域の方と出会った際には、挨拶を交わしている。公民館の夏祭りに参加した際には、利用者は大いに喜んでいて。コロナ以前は、法人の夏祭りに地域の方を招待したり、小学生のお遊戯や中学生の職場体験を受け入れたりして、再開を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前回同様に自施設から地域への発信は出来ない。ただ、入居申し込みや相談の際には認知症の事についても話をさせてもらい理解に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については、毎回事前に職員に意義について説明をしている。	外部評価に向けて、全職員で準備を行い、日々の業務の見直しにも繋がった。オムツの管理場所をどうするかの話し合いが出た。出た評価結果を基に、両ユニットの管理者を中心に改善に向けて取り組む予定である。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、その都度報告をさせてもらい出席者より意見や助言を頂いている。	2ヶ月に1回、対面で実施できている。協議会会長、副会長、自治会長、法人内の他施設の管理者と家族代表、地域包括センター長が参加している。職員・利用者状況、感染・面会報告、看取りについて話し合った。施設長のスライドショーがあり、資料が見やすいように工夫されていた。	
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所もその都度の連絡や何らかの申請の際には行って状況を聞かれた時に報告、相談している。その他、包括や居宅からも状況確や相談された際には伝えている。また、GH協会に参加し日頃より連絡を取り会議にも参加している。	提出書類がある際には、直接持参したり、郵送したりしている。直近では、認定調査について電話にて問い合わせた。役場からの連絡は封書で来たり、グループホーム直通のメールに届いたりして、常に確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のための委員会は毎年メンバーを入れ替えてマンネリ化しないよう研修や会議を開催している。また虐待防止の活動にも取り組んでいる。	3ヶ月に1回、身体拘束委員会を開催している。拘束の見直しや確認、内玄関の施錠、スピーチロックやセンサーマットについて話し合った。インターネットより事例を取り上げて、資料として配布している。直近では、グレーゾーンの確認やスリーロックについて取り上げて、学びを深めた。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止のための委員会発足と同時に虐待防止の活動にも取り組んでいる。ユニット会議での研修課題にもあげ、職員全員で勉強し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は該当する入居者がいないため、今後の支援に向けて制度の詳細について学ぶ機会を設けていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には充分時間を取りご家族の意向を説明の都度確認するとともに、不明な点や不安な事については時間を掛け説明し、ご理解していただき納得されたのち契約を行ってもらう。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や地域の第三者委員などの苦情相談体制を契約時に説明すると共に、家族に関わる際には不安や心配事は無いか聞くようにしている。御家族から意見や心配事あれば、その都度現場に伝え、改善必要あれば会議棟で話し合いを行っている。	面会は、相談室やホールにて対面で開催している。何かあればメールや電話でやり取りをしている。家族から下肢筋力が低下しないように、足上げ運動をして欲しいとの要望が挙がり、無理のないように行っている。利用者からケーキが食べたいとの声が挙がり、誕生日の際に提供したら、喜んで頂けた。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催しているユニット会議では各職員が担当者の状況報告も加え業務等への意見を言う機会を設けている。また、その意見については反対するのではなく尊重し業務等へ反映できるように話し合う。個人的に相談、意見して来た場合にも本人の意見を尊重し受け入れるようにしている。	月1回、ユニット会議を開催している。年1回、施設長・管理者面談があり、その時に意見を聴取している。管理者は常に職員の意見に耳を傾けて、「まずはやってみようの精神」で取り組んでいる。職員の意見から、臀部に痒みがあった方への対応として、薬の変更や陰部洗浄・オムツ変更を実施して、現在経過観察中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状のスタッフの中で自宅でも介護に携わっているもの、育児に携わっているものがあるためその状況をスタッフ全員が理解することで協力する姿勢が出来ていると考える。職場でのストレス・家庭でのストレスを職場全体で理解することが結果的に入居者に対するより良いサービスにつながることを職員全体で理解するよう努力している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員を迎え、教育担当を指名し教育に当たってもらった。日々のOJTの重要性を職員全員が実感するとともに先輩職員としての介護に対する意識向上にもつながった。また、個人の目標管理シートを作成し、年度の目標を明確にすることで自己啓発につながっている。	毎月、内部研修を法人全体で実施している。職員の年数や能力に応じた研修に参加して頂いている。研修に参加した職員が復命書に記載して、全職員に通達している。新人職員には、現場で一から丁寧に教えている。1年毎に個人の目標シートを振り返り、次年度に活かせるようにしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会への参加により、事業所同士の状況報告、意見の交換の機会はある。研修等にも参加出来る際には参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に頂いた情報を基に初期の段階で基本情報を積み上げ、いかに入居者本人を職員が理解できるかどうか良質なサービスの提供につながると考えている。その為私たち職員がいかに入居者の不安感の払拭がいち早くでき施設としての個別のサービスにつなげられると考えている。計画作成担当者が職員それぞれの意見を集約するように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が確定した段階で、ご家族の要望・意向等を伺い、それに沿ったサービスが提供できるよう努めている。また、ご家族との話し合いの中で説明を行い、自施設で行える最善を提示し理解を得るようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りを家族の意向・CMの意見・ご本人との面談を行い、入居判定会議を行うようにしている。当施設の現状の支援をまず家族に説明しながら日常生活が適合できるか否か、また自施設での対応ができるか否かを検討することになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には常に共同スペースで過ごしていただくよう配慮している。その際、何かしらの作業・役割・手作業・会話の生まれる環境を作ることを心掛けている。また、家事への参加として洗濯物たたみ、掃除、草取り、畑仕事などを一緒にするようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染拡大以降、面会が制限されており、以前のように面会をしていただくことが難しいが、計画作成担当者・管理者が定期的にご家族へ支援経過や写真を活用して近況を報告している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大以前は生まれ故郷でのご自宅探索・なじみのあるお店に行ったり等していた。外出をすることが難しい現状ではあるが、気分転換を兼ねて昔なじみのある場所近辺をドライブしたりするようにしている。	面会は、相談室やホールにて対面で実施している。利用者の息子さんが施設内の草刈りに来て頂いたことがあった。グループホームの利用者が特養へ出向き、おしゃべりやレクリエーション活動を楽しんでいる。法人内の他施設の職員や利用者との交流もあり、馴染みの人や場所が形成されていた。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性で席を配置はしているが、極力みんなが顔が見える距離にいられるように配慮している。入居者同士のトラブルもあるが、そこに職員を配置することでよい関係が保てるように配慮している。その為入居者同士での支援の様子が伺えたりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入所していたところのお写真や寄せ書きなどを持参しご家族とも関係を維持するとともに相談があれば対応するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援経過に毎月担当職員がモニタリングとして評価を実施している。計画作成担当者はその内容をチェックし、介護計画の修正に役立てている。またユニット会議の席上では毎回個人別に現状の問題点や支援計画・アイデアの聞き取りを行うことにして、日常の支援に役立てている。	入居時に、他のGHの職員からの情報提供やフェイスシートにて、生活歴や家族、既往歴の確認をしている。発語が少ない方への対応として、表情や仕草から読み取り、職員間での情報交換をして、ベストな選択ができるように模索している。気づいた点は、ユニット会議にて意見を出し合っている。	今でも十分にできていますが、さらに利用者の思いに寄り添えるように配慮してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中でキーワードをどの職員も把握・共有するようにし、また新しい発見を日常業務の中で伝え合うようにしている。ご家族がいらっしゃった時は、新しい発見をお伝えするとともに生活歴をお聞きし、さらに入居者が共感する話題の発掘に努めるようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の支援経過にその人の心情観察なども加えることで常に安心して過ごせる状態を模索し、職員全員で情報の共有を意識するように心がけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月ごとに支援経過を総括し、評価・まとめを記入しモニタリングを実施している。ユニット会議の席上で計画作成担当者が意見などの取りまとめを行っている。介護計画書の更新時にはご家族に対し説明を行い、遠方のご家族には書面を郵送で送るほか電話などでご意向の確認なども行っている。	入居時に暫定プランを作成し、何もなければ3ヶ月で見直している。長期目標6ヶ月、短期目標は3ヶ月で設定している。担当制を敷いていて、ケアマネジャーに書面を提出して、確認している。ケアプラン更新時に合わせて、家族へは書面で郵送し、同意を得ている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士の日常業務での情報交換が大切と考えているが、支援経過記録や申し送りノートでの確認・情報の共有もあわせて活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしい生活を尊重し、できるだけ希望に沿った支援を行うために、場合によっては他事業所のあらゆる職種のスタッフに関わってもらうなど、柔軟に対応できるようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域での生活を実践するために、住んでいた場所・記憶に残る施設近辺への外出(現在はドライブのみ)を常に日常生活の中に取り入れていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日嘱託医の杉山医院による往診をもらっている。当日に個人のバイタル表と相談事項を記入し、往診の際医師の助言をもらうようにしている。また従来からのかかりつけ医の受診を希望されているご家族には 職員が付き添い適切な健康状態の報告と医師への相談をするように心がけている。	かかりつけ医は入居時に選べ、ほとんどの方が協力医へ転医している。週1回往診があり、ドクターとの関係性も良く、利用者は和気藹々と話している。他科受診は、職員同行を基本としているが、家族対応の場合もある。歯科も提携医があり、何かあればいつでも相談できる体制となっている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に相談して入居者の健康管理に役立てている。バイタルチェック・様子観察による健康状態の把握、服薬管理、受診対応、医師への連絡・報告などを行っている。状態によってはご家族と連携を取りながら専門医への受診も行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	嘱託医・かかりつけ医には定期受診で相談することはもちろん、入院の際はご家族の都合も加味しながら援助するようにしている。家族の対応が困難な場合も施設側が洗濯物やオムツ購入などの対応も行い、早期退院に向けて協力することとしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期における家族のご意向を聞くようにしている。ただし、食事の経口摂取が出来なくなったときは退きの扱いとなることを説明している。入院後3か月はお部屋を確保することとしている。入院後の施設での生活の再開には最大限協力することとしている。	入居時に「重要事項説明書」や「推定する本人の意思に関する同意書」にて説明し、同意を得ている。終末期に差し掛かった際には、ドクターや家族と話し合い、法人内の特養に移られる方が多い。同じ敷地内への移動なので、利用者は安心できる環境となっている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	行動制限をしない反面、転倒事故の危険は常にあり。リスクについては普段から職員間で対応を話し合い、ユニット会議・嘱託医の往診の際には協議・相談をしている。その他事故の際は報告書を作成し、対策・対応を記入して実行するようにしている。ユニット研修および施設での研修では看護師による応急対応の研修を受けており緊急対応の訓練も実施している。	事故・ひやりはっとは記載して、事故防止委員会で確認している。直近では、車椅子に移動する際にブレーキがかかっていないことがあり、今後の対応策として、必ずブレーキを掛けるように再確認を促した。事故防止マニュアルも整備されていて、内部研修も実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(年に2回)実施しており、BCP作成中。地域との協力体制についてはマニュアルあるも地域との避難訓練などは実施できておらず。	年2回、法人内の他施設合同で火災訓練を実施している。駐在所と消防署が施設の隣にあるので安心できる。訓練時には、防災頭巾を被って、窓際に避難した。緊急連絡網は、事務所と各ユニットのリビングに掲示してある。備蓄食料は厨房で一括管理され、消耗品は各ユニットの介護材料室にて保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいの点では、まだまだ充分出来ているとは言えない。危険回避のためと言いながら強い口調になってしまうことがある。ただしユニット研修でもこの問題を取り上げたりすることによって従来よりは意識するようになったと考えている。また支援のストレスを職員全員で理解するとともに極力冷静で業務に当たれる環境作りを心掛けるようにしている。	年1回、接遇研修を実施して、介護・職場マナー、表情や態度、挨拶や言葉遣いについて学びを深めた。復命書にて、他の職員にも情報を伝えている。相手の表情を見ながら、馴れ合いにならないように配慮して接している。居室に入る際には、言葉掛けやノックをしてから入室するようにしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から入居者が望んでいることを常に推測するように心がけている。また、本人と関わることで馴染みの関係を築き、要望・希望を言いやすい雰囲気を大事にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としては食事の時間をはじめとして、日常生活はほぼ時間が決まっている。ただ強制するのではなく誘導・案内する姿勢は崩さないようにしている。誘導の技術を磨くことで業務もスムーズに出来るのだが、難しいときはその人のペースに合わせ、無理強いほしくないというルールにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がその日の気候に合わせて準備するが、選択できるよう配慮している。髪留めや化粧品も本人の意向により準備したりしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査は入所時の行っているが、みんなで一緒に食事をするという習慣作りを定着させている。食事は給食施設から毎回届けていただいている。出来る方には台拭きなどのお手伝いをいただいている。	3食ケイタリングで、法人内の厨房に完成したものが届く。盛り付けは各ユニットで行っている。利用者の食事形態に合わせて、刻みやミキサー食に変更している。法人内に管理栄養士がいて、業者との窓口となっている。おやつ作りの際には、ホットケーキの上に各自でデコレーションを楽しむ姿が浮かんできた。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は業者にて行っており、食事摂取・水分摂取の記録などは職員が行っている。体調不良や摂取状態により食事形態の変更や食器の変更なども行っており、都度状況に合わせた対応が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・夜間の入れ歯洗浄は実施しており、口腔内の状態もチェックするようにしている。協力歯科医の山野医院にも受診したり、関係機関の研修にも参加し口腔ケアの勉強もしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中・夜間と入居者に合わせたトイレ誘導を実施しておりトイレでの自力排泄を心掛けている。利用者一人一人に合った排泄パターンを排泄チェック表を活用して把握し、声掛けや誘導を行っている。	トイレは各ユニット4ヶ所あり、単イス対応の広さとなっている。排泄チェック表は、紙媒体とタブレットを併用している。利用者一人ひとりのタイミングで言葉掛けを行っていて、排便コントロールにも繋がっている。布パンツ過ごされている方が3~4名、夜間のみポータブルトイレを使用している方は1名いる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の薬を服用している入居者も多く、記録および状態観察で医師と相談しながら服薬の調整も行っている。運動が大切という認識から毎日テレビ体操を行っている。食事については栄養士の考えた繊維質の多い食材になっているので職員は水分摂取が十分取れているかのチェックをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は固定(月・火・木・金)しているが、希望すれば毎日でも入浴可能で本人の希望する時間に入浴できるようにしている。入浴したくない人には時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をしたりしている。入居者の状態に合わせて清拭・シャワー浴・足浴など個々に応じた支援もしている。	入浴は週2回で、半数以上の方が浴槽に浸かれている。入浴時間は20分くらいの時間を取っている。入浴を拒否される方へは、脱衣所のトイレに行った後に、さりげなく誘導している。1つのユニットはボランテを導入している。個浴の方では、入浴剤を使用して気分転換を図っている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	少しでも安眠が得られるようにと日中の活動を重要視している。一人ひとりのペースも大切にしながら夜の入床については一律にはしていない。ベットメイクも毎日実施しており、清潔・整頓を心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診・受診介助の際薬も合わせて施設職員が気づかっており、管理・服薬介助も実施している。薬情も一括してファイリングしており、都度確認するようにしている。変更があった場合などには副作用など注意点を申し送りや伝達することになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の大切さとして、お盆拭き・掃除・手すり拭き・ゴミだし・ゴミ箱づくり・食卓拭き・洗濯物たみなどを日常の共同生活の役割として実践していただいている。楽しみの援助としては裁縫や編み物・貼り絵工作・パズル・ゲームなどを楽しめるように心がけている。季節感も大切にしようという試みの中では、その季節に合った行事の企画をしたりしている。	個別でのレクリエーション活動を大切にしている、TVを観ながら利用者同士が会話を楽しんでいる姿が窺えた。編み物や塗り絵をしている方もいる。各ユニット毎で毎月レクリエーションを行い、福笑いや紙飛行機で紙コップを倒したり、ハロウィンでは仮装パーティーで大いに盛り上がりがあった。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大以降、なかなか以前のように外出をするのが難しく、実施する事が出来ていない。	家族同伴の外出は可能で、猪の置物を買ってこられた方には、満面の笑みがこぼれていた。気分転換として法人施設内の散歩を楽しんでいる方もいる。春先には目の前の道路が桜並木となり、利用者のベストショットが撮れた。施設前の庭で、ゲートボール大会が開催され、利用者は応援していた。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染拡大以降、日用品の買い物に出かけることがなくなっており、お金を使える機会が減っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時やご家族からのあった際は、本人と家族の関係が保てる橋渡しとして支援している。手紙については年賀状のやり取りを勧め、直筆でできる人には付き添いながら作成している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや、入居者さんと作った壁面飾りや写真を貼っている。また生活の場としての共用の場所は安全で使いやすいように配置や張り紙などを行っている。室温・換気については常に意識し入居者に居心地よく過ごしていただけるように配慮している。	開放感溢れるリビングの壁面には、季節の飾り物や利用者の写真・作品が飾られていて、金魚の成長を利用者と共に見守っていた。TV、手芸、塗り絵をして自由にのびのびと過ごしている姿が窺えた。職員と利用者とのやり取りで、お互いにOKサインを出して、アイコンタクトを取っている姿がなんとも微笑ましかった。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係には特に配慮して、テーブルの配置・席替えなども行っている。会話が弾む相性などの人間関係が一定でないこともあるため、ユニット会議の際に職員からの意見を反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・家族のご意向も参考にしながら入居者それぞれが落ち着ける部屋作りをしている。思い出の品を持ち込んだり、逆に極力少なくして混乱を避ける工夫をして、一人一人の部屋作りをしている。	備え付けは、ベッド・エアコン・テレビ台付きタンス。全室が時間帯によって日が当たる場所となっている。窓は大きくて低い位置にあり、自然と一体感になっている。職員からプレゼントされた色紙や家族写真が大切に飾られていた。塗り絵が得意な方の部屋には、たくさんの作品が飾られていた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した共同生活が少しでもできる環境づくりには配慮している。障害物や混乱を招くものは極力視覚外に排除し、一人でもトイレに行ける・自分の部屋に戻ることができる等、分かりやすい生活環境を作ることを心掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)		1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)		1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				